

# 鳥獣の 保護管理

## 地域一体となって獣害対策に取り組む（益田地区）

～ 獣害に強い集落づくりを目指す ～

### 研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。そこで、クマの主要な生息地であり、県内でも早い段階からクマの被害対策等が行われてきた益田市匹見町において、集落ぐるみの対策による実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査から地域一体となったクマ対策等に取り組むための集落へのアプローチの方法を模索しながら、その手法を確立します。

### 研究方法

益田市匹見地区において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。住民の意識や出没・被害状況を分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみでの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

### 研究状況

#### ☆広域電気柵における維持管理手法の再構築

匹見上地区は、クマ用のネット型（高さ1.2m）とリボンワイヤー型（4段張り）の電気柵が集落を囲むように山際に約16km設置してあります。アンケート調査では電気柵を①頼りにしている」と「②どちらかという頼りにしている」の合計が77%を占めて、多くの人が頼りにしていることがわかりました。しかし、不具合箇所（ネットの破損、倒木による破損等）を調査すると約400か所もあって、問題が多いことが明らかとなりました（写真1）。これまで、広域電気柵の維持管理は住民が主体となって行ってきましたが、管理をする集落としない集落があって、十分な管理は実施されてきませんでした。そのため、同一の電牧器の区間内のA集落が維持管理してもB集落がしなければ電気柵の効果はありませんでした。そこで、集落毎に電牧器を設置して維持管理を行う手法を提案しました。このうち、元組集落では独立した電牧器を設置して、新たな維持管理をスタートさせました（写真2）。今後は、この手法を基にした維持管理体制を整えていくことが必要です。



写真1 電気柵の点検の様子（元組集落）



写真2 自治会での維持管理の様子（元組集落）



### 研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害軽減効果が実証できれば、効果的な取り組みとして、県内全域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾（さわだ せいご）

問い合わせ先 : 0854-76-3818（直通）

E-mail : [chusankan@pref.shimane.lg.jp](mailto:chusankan@pref.shimane.lg.jp)（代表）

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組みの効果調査（研究期間：H24年7月～H28年6月）

